

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		4,382	t-CO <sub>2</sub>
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換 排出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		4,382

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 5 年度	t-CO <sub>2</sub>	令和 8 年度	t-CO <sub>2</sub>	令和 6 年度	t-CO <sub>2</sub>	令和 7 年度	t-CO <sub>2</sub>	令和 8 年度	t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量										
削減率（対基準年度）				%	%	%	%	%	%	%
温室効果ガスみなし総排出量					t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>
削減率（対基準年度）					%	%	%	%	%	%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 5 年度	t-CO <sub>2</sub> / GJ	令和 8 年度	t-CO <sub>2</sub> / GJ	令和 6 年度	t-CO <sub>2</sub> / GJ	令和 7 年度	t-CO <sub>2</sub> / GJ	令和 8 年度	t-CO <sub>2</sub> / GJ
原単位当たりの排出量	0.03338		0.03305		0.03915					
削減率（対基準年度）			1.0	%	▲ 17.3	%	%	%	%	%
原単位当たりのみなし排出量					t-CO <sub>2</sub> / GJ	t-CO <sub>2</sub> / GJ	t-CO <sub>2</sub> / GJ	t-CO <sub>2</sub> / GJ	t-CO <sub>2</sub> / GJ	t-CO <sub>2</sub> / GJ
削減率（対基準年度）					%	%	%	%	%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

一般論として、CO<sub>2</sub>削減に有効なCGSの運転時間を増加させ、CO<sub>2</sub>排出量の削減を図ったが、CGSで発電した電力量の内、需要家へ売電した電力量を控除できないため、CGSで使用した都市ガスがCO<sub>2</sub>の増加要因となり、目標非達成となった。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び非化石エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理／エネルギー使用量等の把握及び管理	・エネルギー使用量の把握・計測・記録・分析		・日々のエネルギー使用量を運転日報等で共有し、分析
省エネルギー・省資源の推進／空調	・クールビズ・ウォームビズの推奨 ・外気の導入により、空調機又は熱源機の運転時間の削減（外気冷房）		・クールビズ・ウォームの実践 ・機械室において優先的に外気導入を行い、外気冷房を実施
省エネルギー・省資源の推進／照明	・昼安みや残業時には不必要な照明は消灯する。 ・使用していないオフィスの照明は消灯する。		・使用していないオフィスの消灯を実施
省エネルギー・省資源の推進／OA機器	・離席時はスリープ機能を活用 ・退社時や外出時は、可能な限りパソコンや事務用機器の主電源を切り、待機電力を削減		・離席時はPCのスリープ機能による画面消灯 ・退社時、外出時はPC電源の主電源をOFF（25W/台×6台）
自動車利用における取組	・急発進・急加速をしない、アイドリングストップの確実な励行など、エコドライブを推進		・時間にゆとりを持って出発し、エコドライブの実施

指針第2号様式

(2) 非化石エネルギーの利用の状況

ア 非化石電気の使用状況

指標	非化石電気の使用状況						目標 (2030年度)	
	令和 6年度		令和 7年度		令和 8年度			
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	2.7	%		%		%		%

イ 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における非化石エネルギーの利用状況

非化石エネルギーの使用量	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
kl	t-CO <sub>2</sub>

(3) 未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における未利用エネルギーの利用状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)
平成28年度	太陽光発電設備	定格出力: 350kW、年間: 412MWh
〃	運河水利用ヒートポンプ	冷却能力: 1,758kW、年間1,796GJ 暖房能力: 2,013kW、年間2,308GJ

イ アのうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	未利用エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)	
電力			t-CO <sub>2</sub>
熱	#REF!		t-CO <sub>2</sub>

(4) 環境価値 (クレジット等) の活用状況

計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

(5) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO <sub>2</sub>
-------------------

(6) 電気の需要の最適化に資する措置を実施した日数

日
---

(7) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

電子共有フォルダの利用等によるペーパーレス化

(8) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

エレベータの利用を控える。